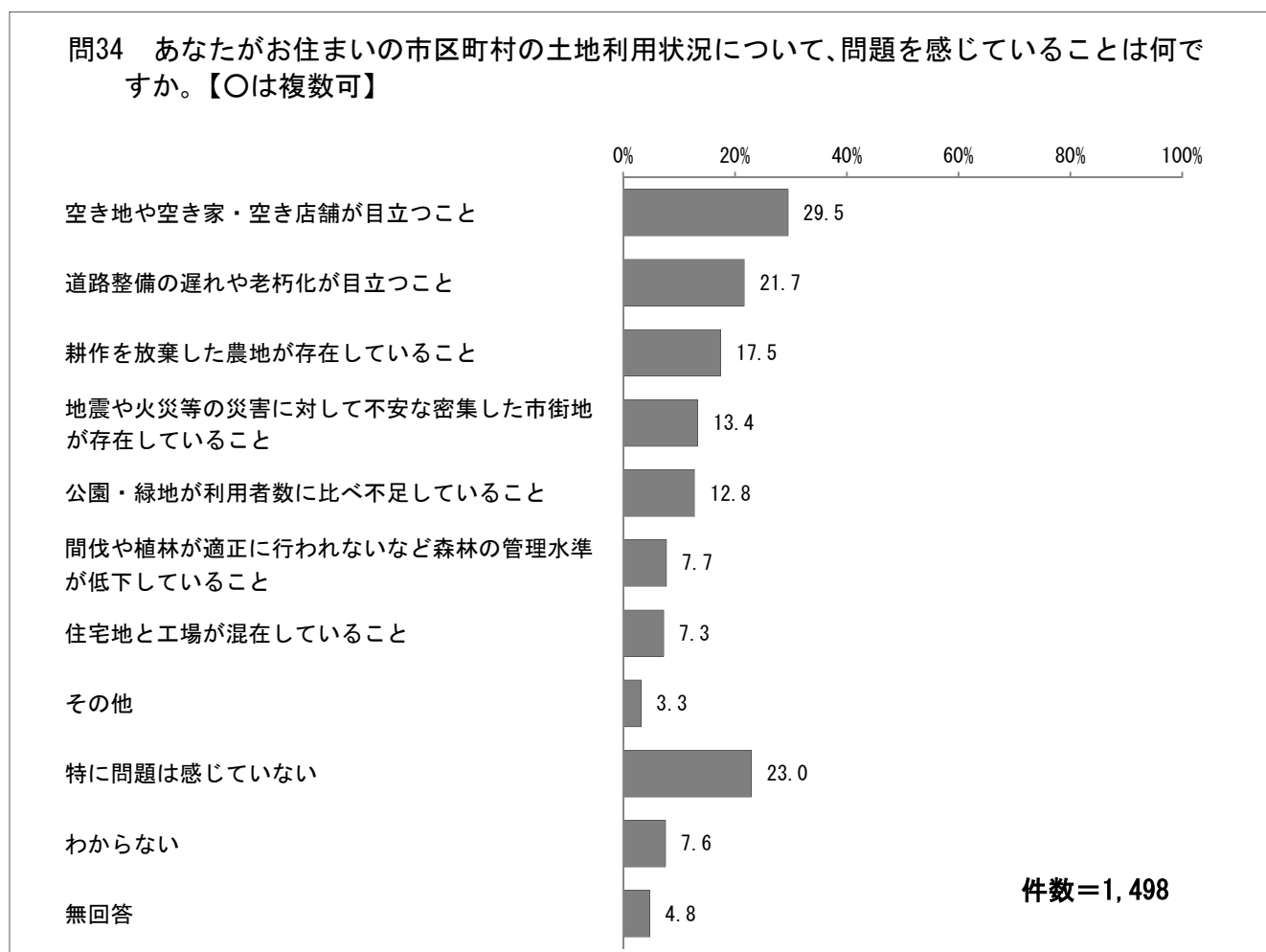


6 土地利用対策について

(1) 地域の土地利用状況に関して感じている問題

「空き地や空き家・空き店舗が目立つこと」が29.5%

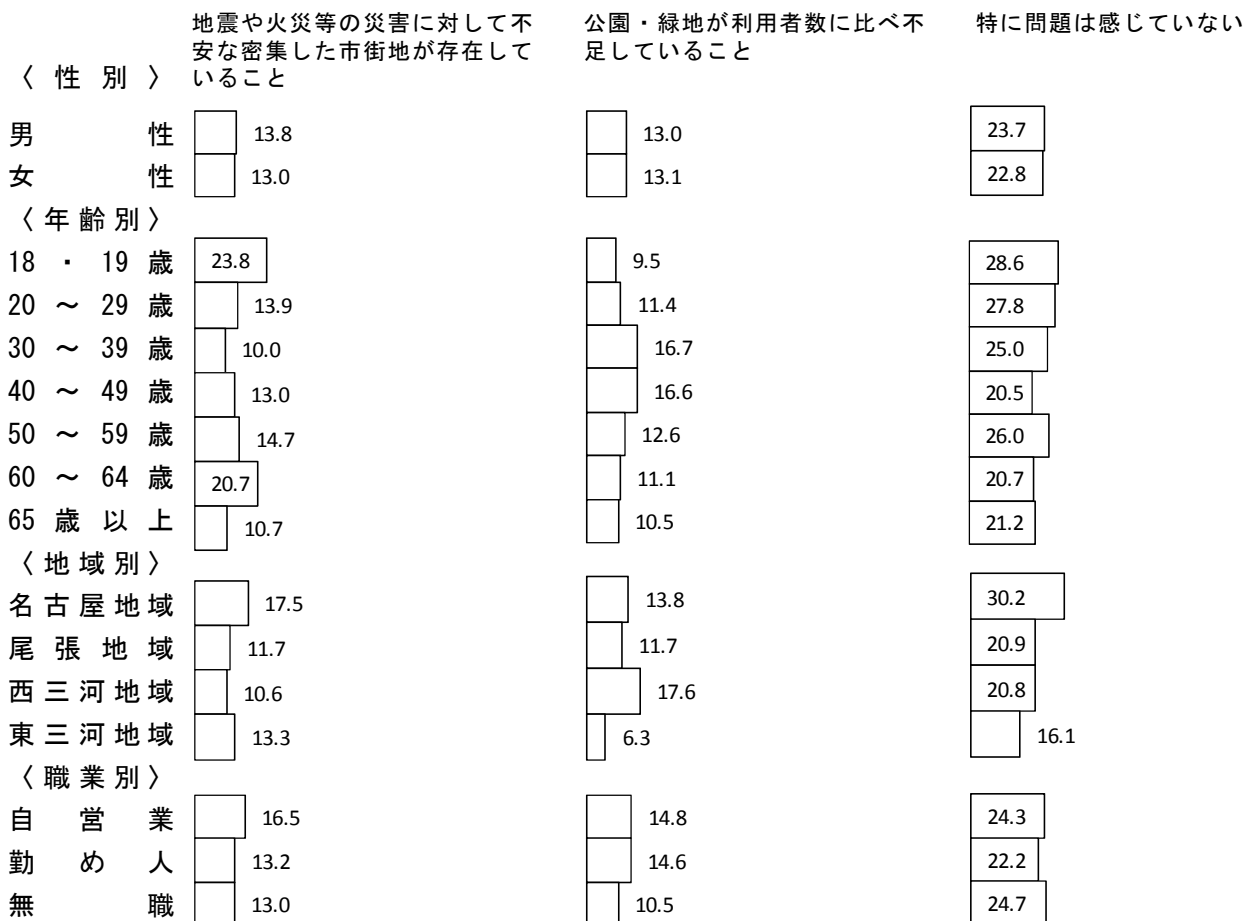
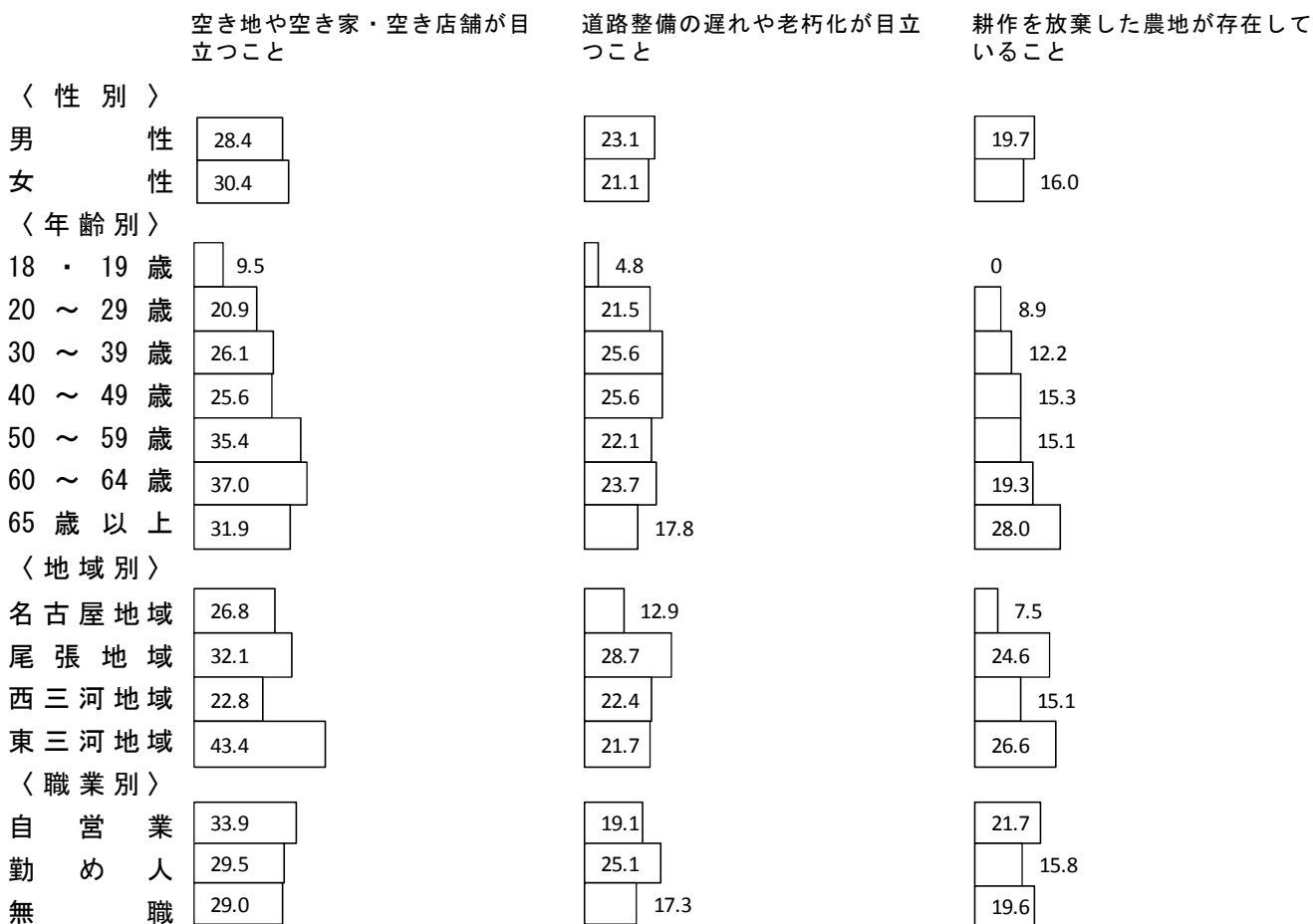


地域の土地利用状況に関して感じている問題について、「空き地や空き家・空き店舗が目立つこと」と答えた人の割合が29.5%と最も高く、続いて「道路整備の遅れや老朽化が目立つこと」(21.7%)、「耕作を放棄した農地が存在していること」(17.5%)の順となっている。

一方で、「特に問題は感じていない」と答えた人の割合は、23.0%となっている。

地域の土地利用状況に関して感じている問題（性別、年齢別、地域別、職業別）

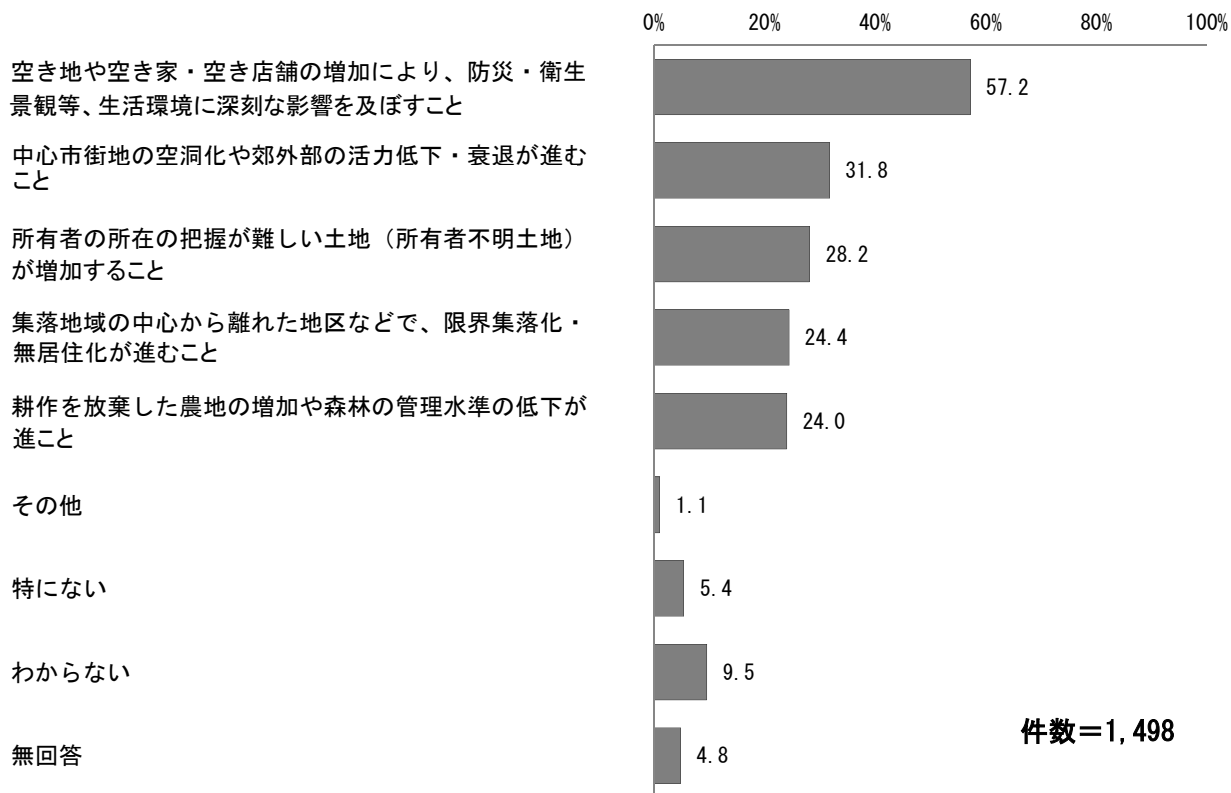
(%)



(2) 愛知県の土地利用に関して深刻だと感じる問題

「空き地や空き家・空き店舗の増加により、防災・衛生・景観等、生活環境に深刻な影響を及ぼすこと」が57.2%

問35 愛知県の人口は、2020年頃をピークに減少に転じる見込みとなっており、今後、人口減少が進むにつれて、空き地や空き家、耕作を放棄した農地、長期間手入れがなされず荒廃した森林の増加などの課題が一層、深刻化することが予想されています。愛知県の土地利用について、あなたが深刻な問題だと感じることは何ですか。【〇は複数可】



愛知県の土地利用に関して深刻だと感じる問題について、「空き地や空き家・空き店舗の増加により、防災・衛生・景観等、生活環境に深刻な影響を及ぼすこと」と答えた人の割合が57.2%と最も高く、続いて「中心市街地の空洞化や郊外部の活力低下・衰退が進むこと」（31.8%）、「所有者の所在の把握が難しい土地（所有者不明土地）が増加すること」（28.2%）の順となっている。

愛知県の土地利用に関して深刻だと感じる問題（性別、年齢別、地域別、職業別）

(%)

空き地や空き家・空き店舗の増加により、防災・衛生・景観等、生活環境に深刻な影響を及ぼすこと

中心市街地の空洞化や郊外部の活力低下・衰退が進むこと

所有者の所在の把握が難しい土地（所有者不明土地）が増加すること

〈性別〉

男性	54.9	35.2	29.3
女性	59.9	29.4	27.6

〈年齢別〉

18・19歳	42.9	33.3	19.0
20～29歳	49.4	36.7	25.3
30～39歳	56.1	30.0	30.6
40～49歳	62.3	28.6	36.4
50～59歳	64.6	38.9	32.6
60～64歳	60.7	30.4	22.2
65歳以上	52.9	29.1	21.7

〈地域別〉

名古屋地域	61.7	32.4	29.5
尾張地域	57.7	30.1	29.4
西三河地域	56.4	31.4	28.2
東三河地域	49.0	39.9	20.3

〈職業別〉

自営業	59.1	35.7	33.0
勤め人	59.4	32.8	30.3
無職	54.9	30.0	24.5

〈性別〉

集落地域の中心から離れた地区などで、限界集落化・無居住化が進むこと

耕作を放棄した農地の増加や森林の管理水準の低下が進むこと

男性	24.8	24.0
女性	24.7	24.4

〈年齢別〉

18・19歳	38.1	23.8
20～29歳	26.6	17.7
30～39歳	24.4	20.6
40～49歳	28.2	25.0
50～59歳	27.4	22.1
60～64歳	25.2	24.4
65歳以上	18.3	29.6

〈地域別〉

名古屋地域	23.6	18.1
尾張地域	23.7	27.5
西三河地域	26.3	25.3
東三河地域	28.7	26.6

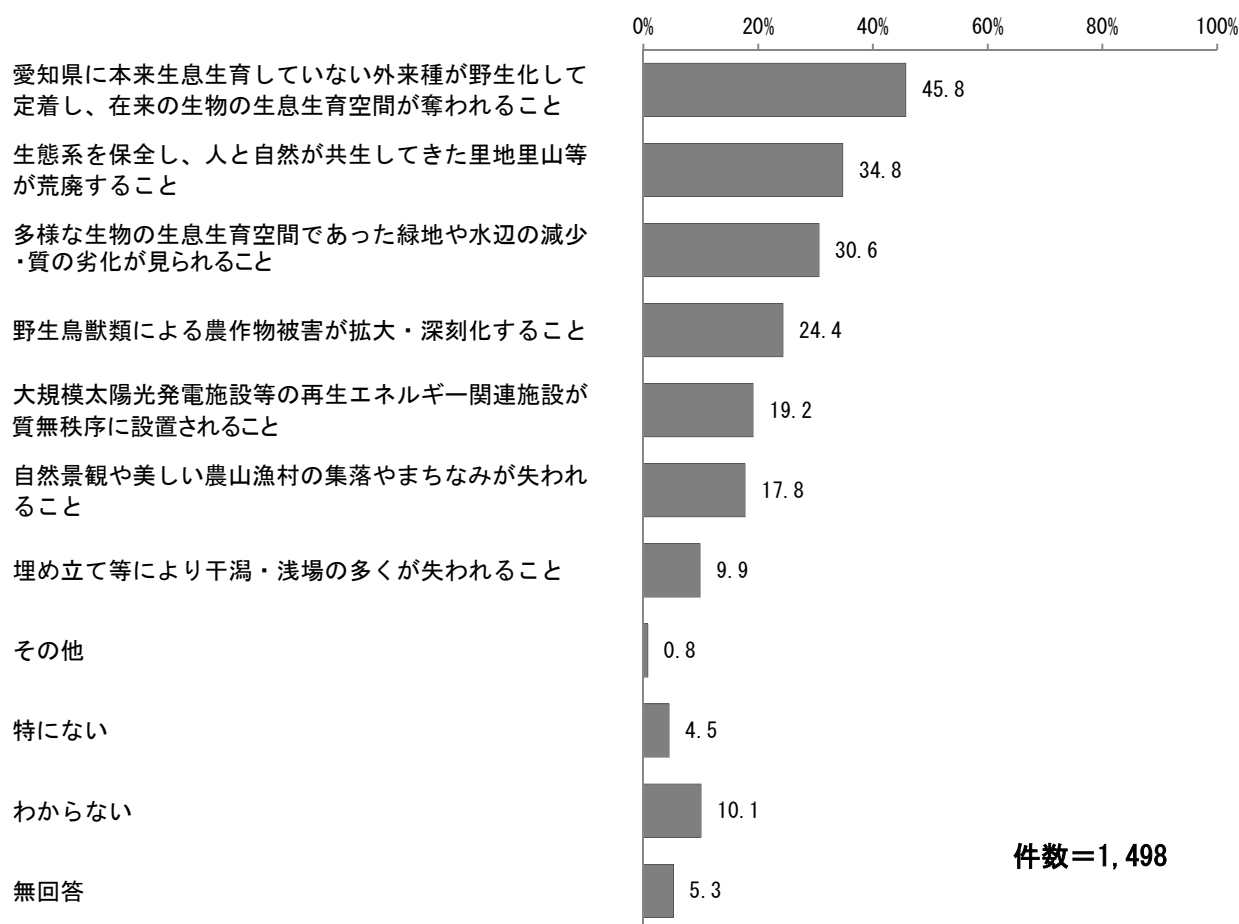
〈職業別〉

自営業	21.7	24.3
勤め人	27.0	22.3
無職	22.2	27.6

(3) 県土の自然環境に関して特に深刻だと感じている問題

「愛知県に本来生息生育していない外来種が野生化して定着し、在来の生物の生息生育空間が奪われること」が 45.8%

問36 地球規模の気候変動等により、自然環境の悪化や生物多様性の損失が懸念されています。県土の自然環境に関して、あなたが特に深刻だと感じている問題は何ですか。
【〇は3つまで】



県土の自然環境に関して特に深刻だと感じている問題について、「愛知県に本来生息生育していない外来種が野生化して定着し、在来の生物の生息生育空間が奪われること」と答えた人の割合が 45.8%と最も高く、続いて「生態系を保全し、人と自然が共生してきた里地里山等が荒廃すること」(34.8%)、「多様な生物の生息生育空間であった緑地や水辺の減少・質の劣化が見られること」(30.6%)の順となっている。

県土の自然環境に関して特に深刻だと感じている問題（性別、年齢別、地域別、職業別）

(%)

愛知県に本来生息生育していない外来種が野生化して定着し、在来の生物の生息生育空間が奪われること

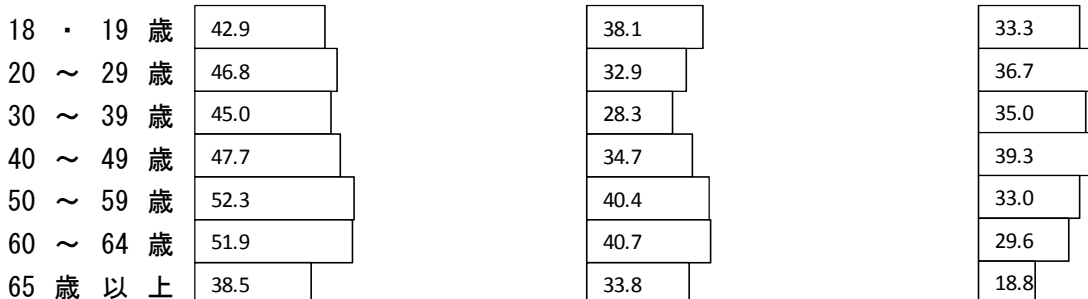
生態系を保全し、人と自然が共生してきた里地里山等が荒廃すること

多様な生物の生息生育空間であった緑地や水辺の減少・質の劣化が見られること

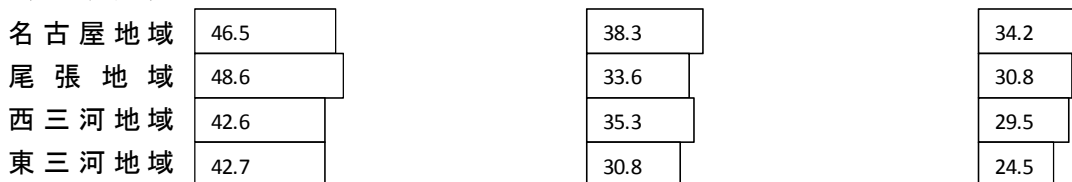
〈性別〉



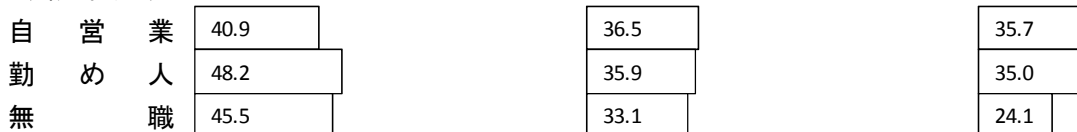
〈年齢別〉



〈地域別〉



〈職業別〉



野生鳥獣類による農作物被害が拡大・深刻化すること

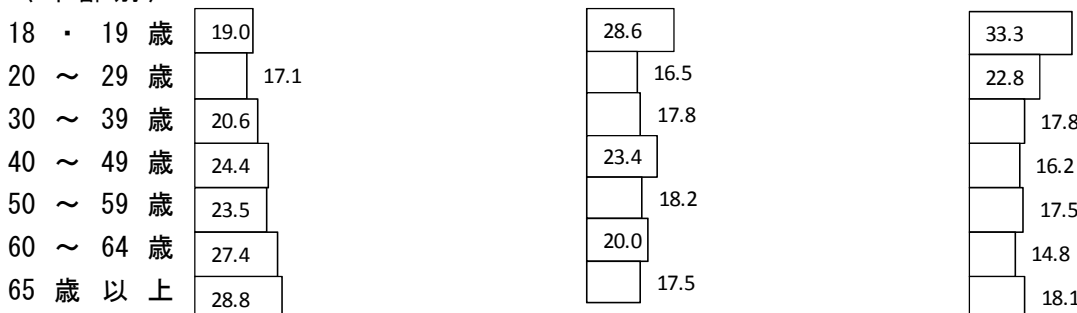
大規模太陽光発電施設等の再生エネルギー関連施設が無秩序に設置されること

自然景観や美しい農山漁村の集落やまちなみが失われること

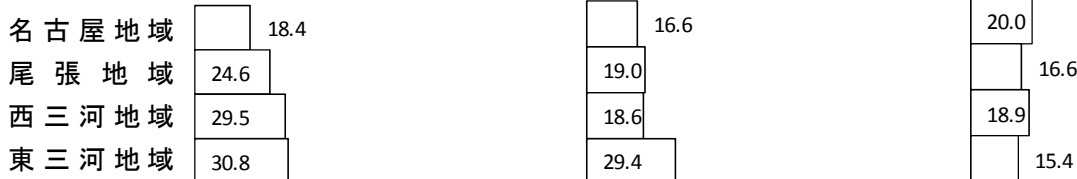
〈性別〉



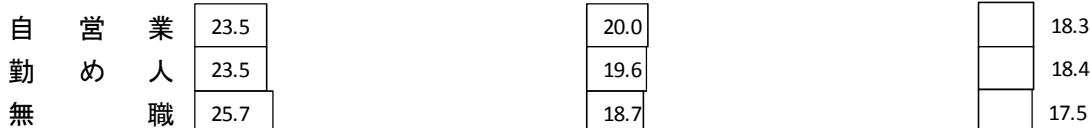
〈年齢別〉



〈地域別〉

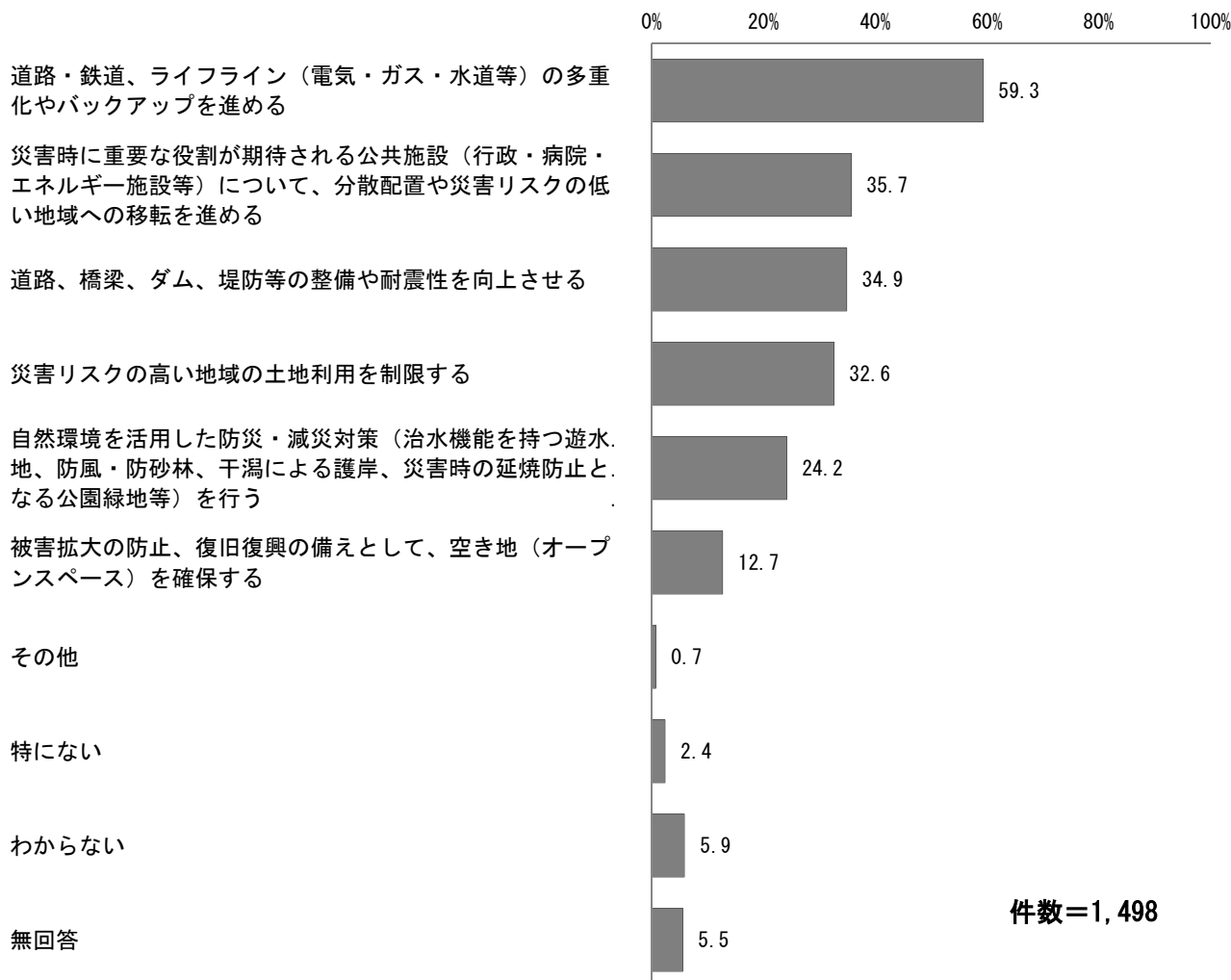


〈職業別〉



(4) 災害リスクから安心・安全を確保するため土地利用の面から重要な対策
「道路・鉄道、ライフライン（電気・ガス・水道等）の多重化やバックアップを進める」
が 59.3%

問37 洪水・土砂災害・地震災害・津波災害など様々な災害リスクから安心・安全を確保するために、土地利用の面からどのような対策が重要だと思いますか。【〇は3つまで】

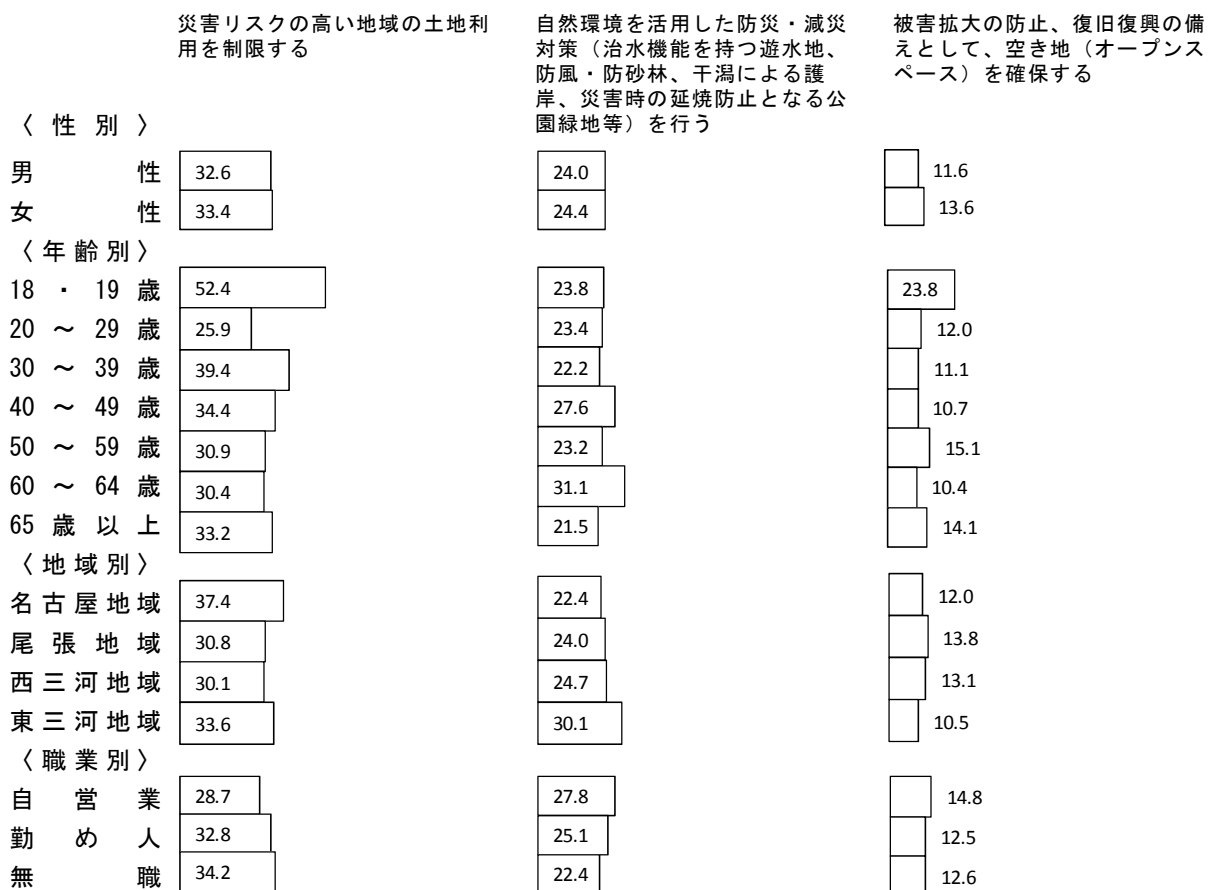
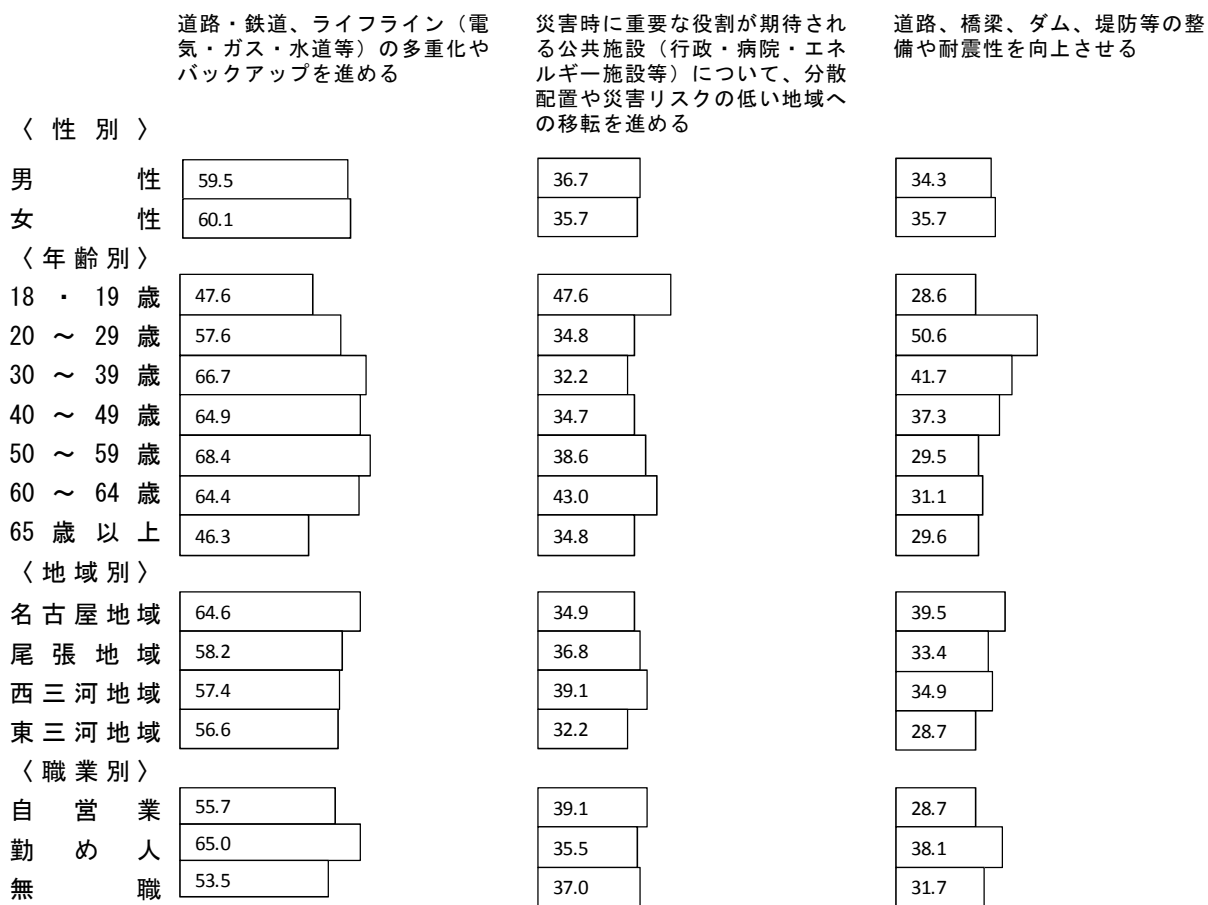


災害リスクから安心・安全を確保するため土地利用の面から重要な対策について、「道路・鉄道、ライフライン（電気・ガス・水道等）の多重化やバックアップを進める」と答えた人の割合が 59.3%と最も高く、続いて「災害時に重要な役割が期待される公共施設（行政・病院・エネルギー施設等）について、分散配置や災害リスクの低い地域への移転を進める」（35.7%）、「道路、橋梁、ダム、堤防等の整備や耐震性を向上させる」（34.9%）の順となっている。

災害リスクから安心・安全を確保するため土地利用の面から重要な対策

(性別、年齢別、地域別、職業別)

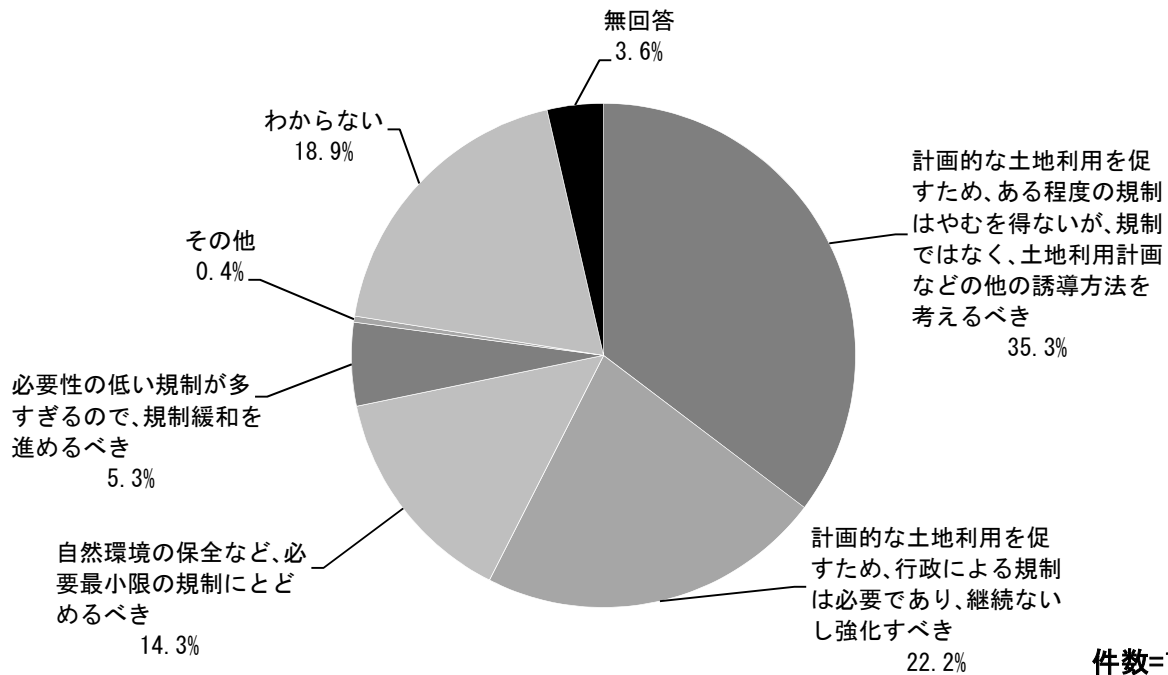
(%)



(5) 農地や森林の開発に関する土地利用規制

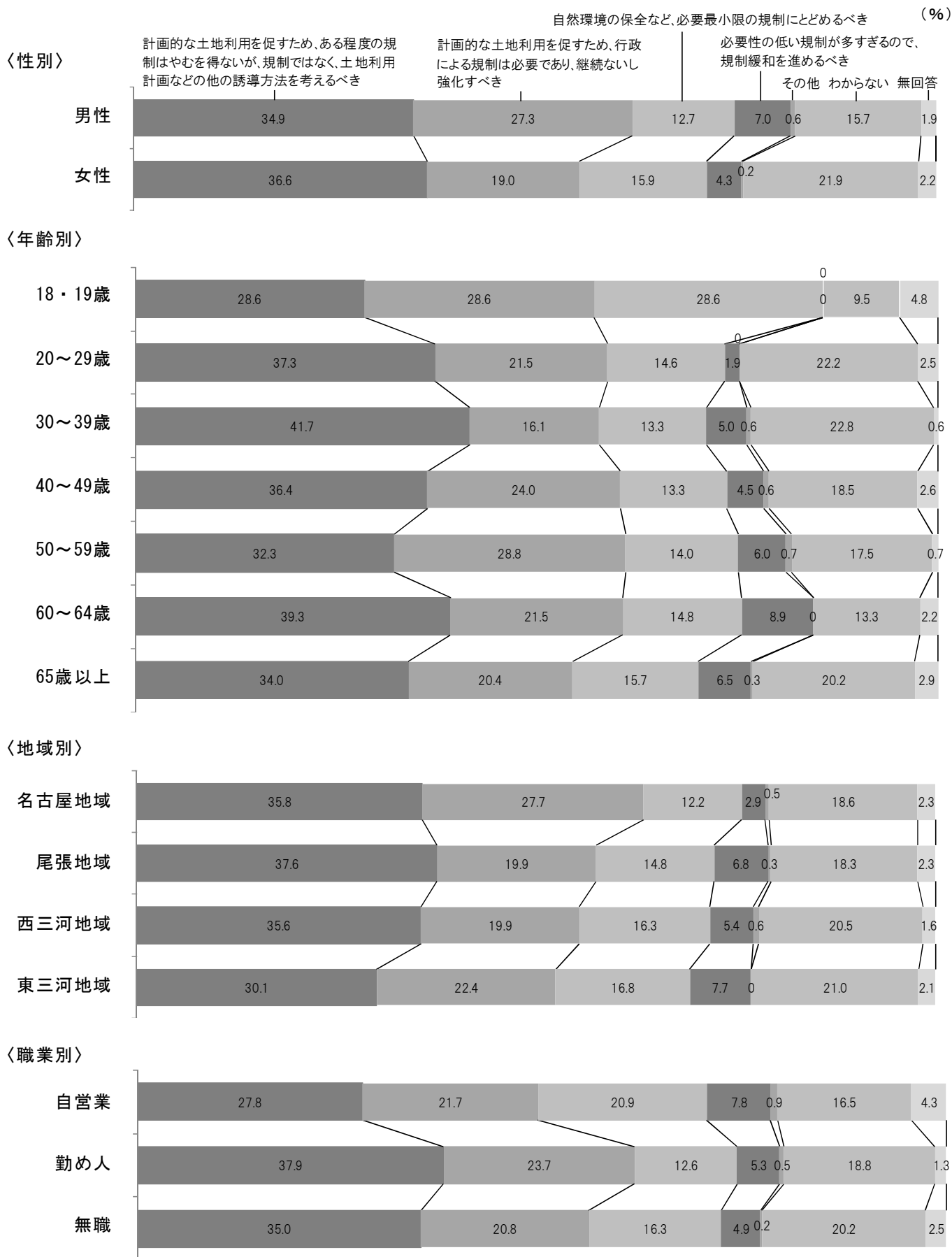
「計画的な土地利用を促すため、ある程度の規制はやむを得ないが、規制ではなく、土地利用計画などの他の誘導方法を考えるべき」が 35.3%

問38 農地や森林を開発し利用しようとする場合、土地の開発や利用に対して、様々な法律や条例により規制がかけられていることがあります。これらの土地利用規制について、あなたはどのように思いますか。【〇は1つ】



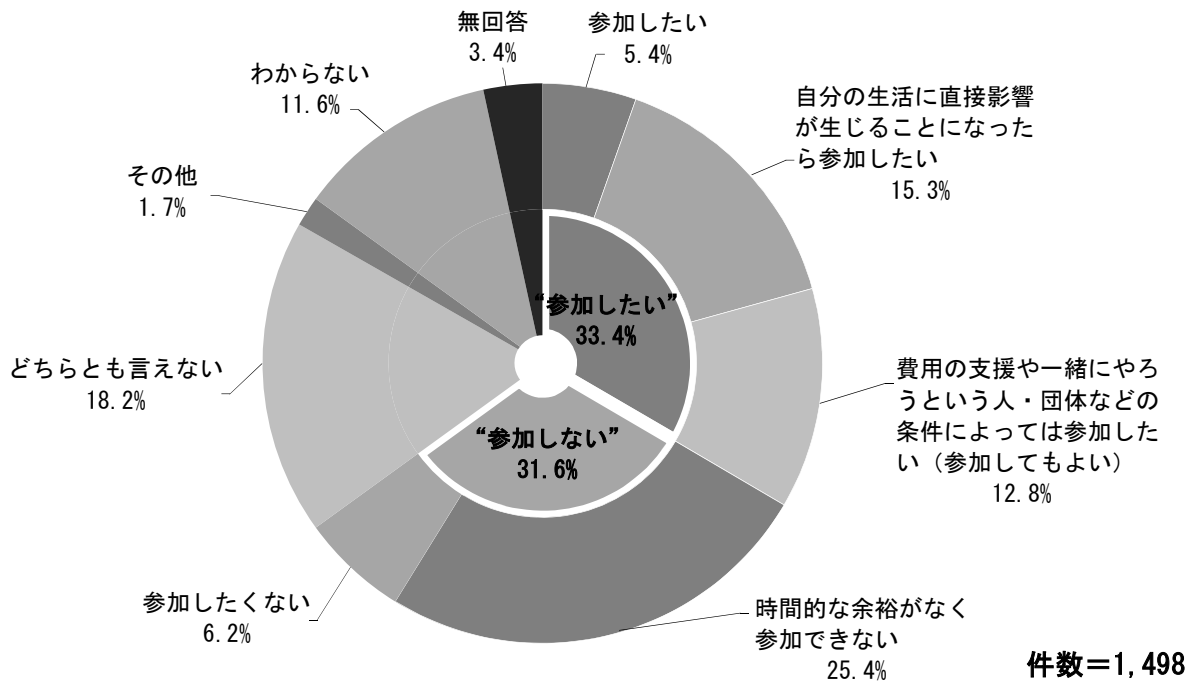
農地や森林の開発に関する土地利用規制について、「計画的な土地利用を促すため、ある程度の規制はやむを得ないが、規制ではなく、土地利用計画などの他の誘導方法を考えるべき」と答えた人の割合が 35.3%と最も高く、続いて「計画的な土地利用を促すため、行政による規制は必要であり、継続ないし強化すべき」(22.2%)、「自然環境の保全など、必要最小限の規制にとどめるべき」(14.3%)の順となっている。

農地や森林の開発に関する土地利用規制（性別、年齢別、地域別、職業別）



(6) 県土づくりへの参加
 “参加したい”が33.4%
 “参加しない”が31.6%

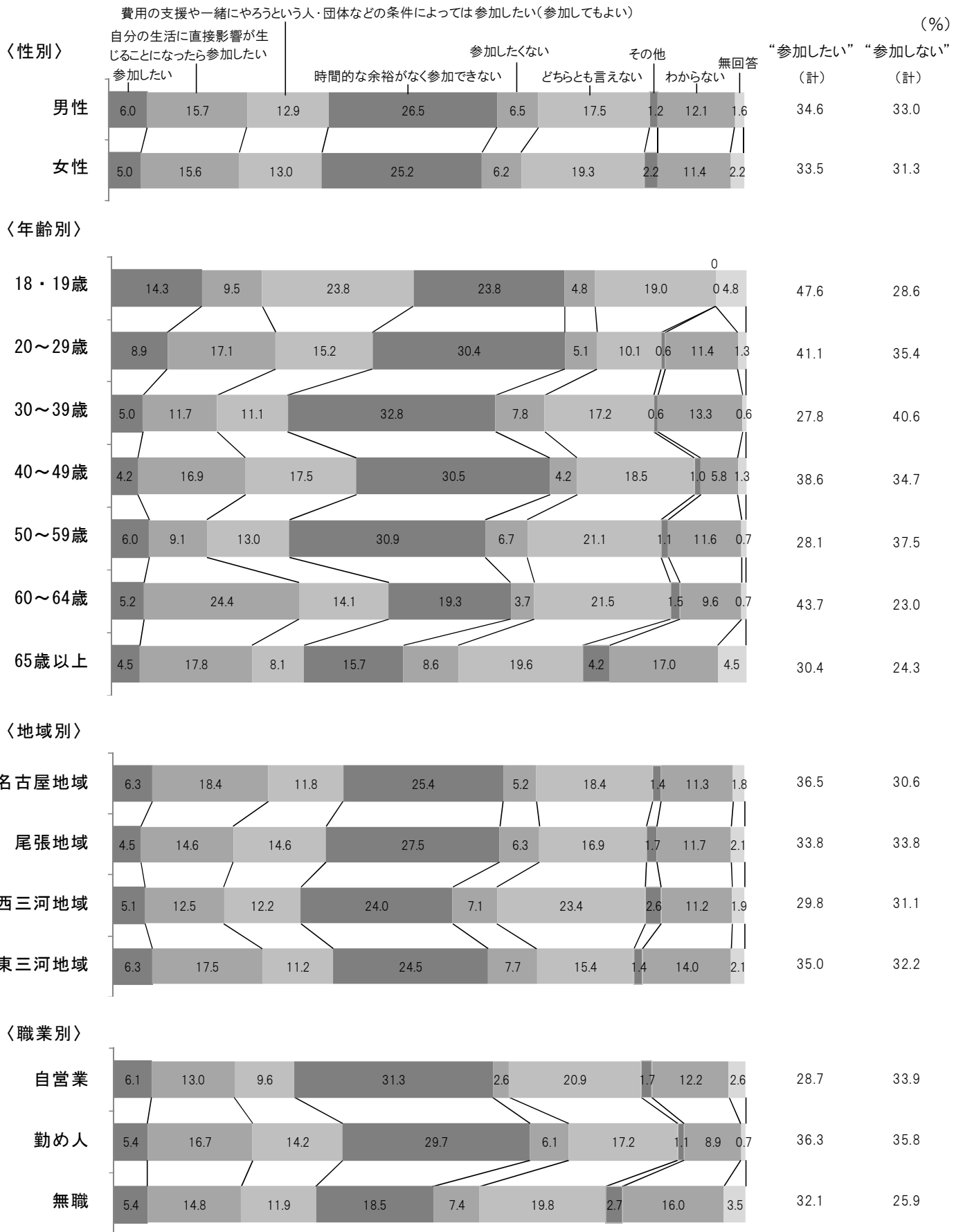
問39 近年、荒れた森林や休耕地の管理、緑あふれる住宅地づくり、地域の公園の管理など、県土に関心を持ち、その管理に参加し、県土をより良い状態に保っていこうといった活動が数多く見られるようになりました。あなたは、地域に暮らす住民として、こうした県土づくりに参加する意向はありますか。【〇は1つ】



県土づくりへの参加について、「参加したい」(5.4%)、「自分の生活に直接影響が生じることになったら参加したい」(15.3%)、「費用の支援や一緒にやろうという人・団体などの条件によっては参加したい(参加してもよい)」(12.8%)を合わせた“参加したい”と答えた人の割合が33.4%となっている。

一方で、「時間的な余裕がなく参加できない」(25.4%)と「参加したくない」(6.2%)を合わせた“参加しない”と答えた人の割合は、31.6%となっている。

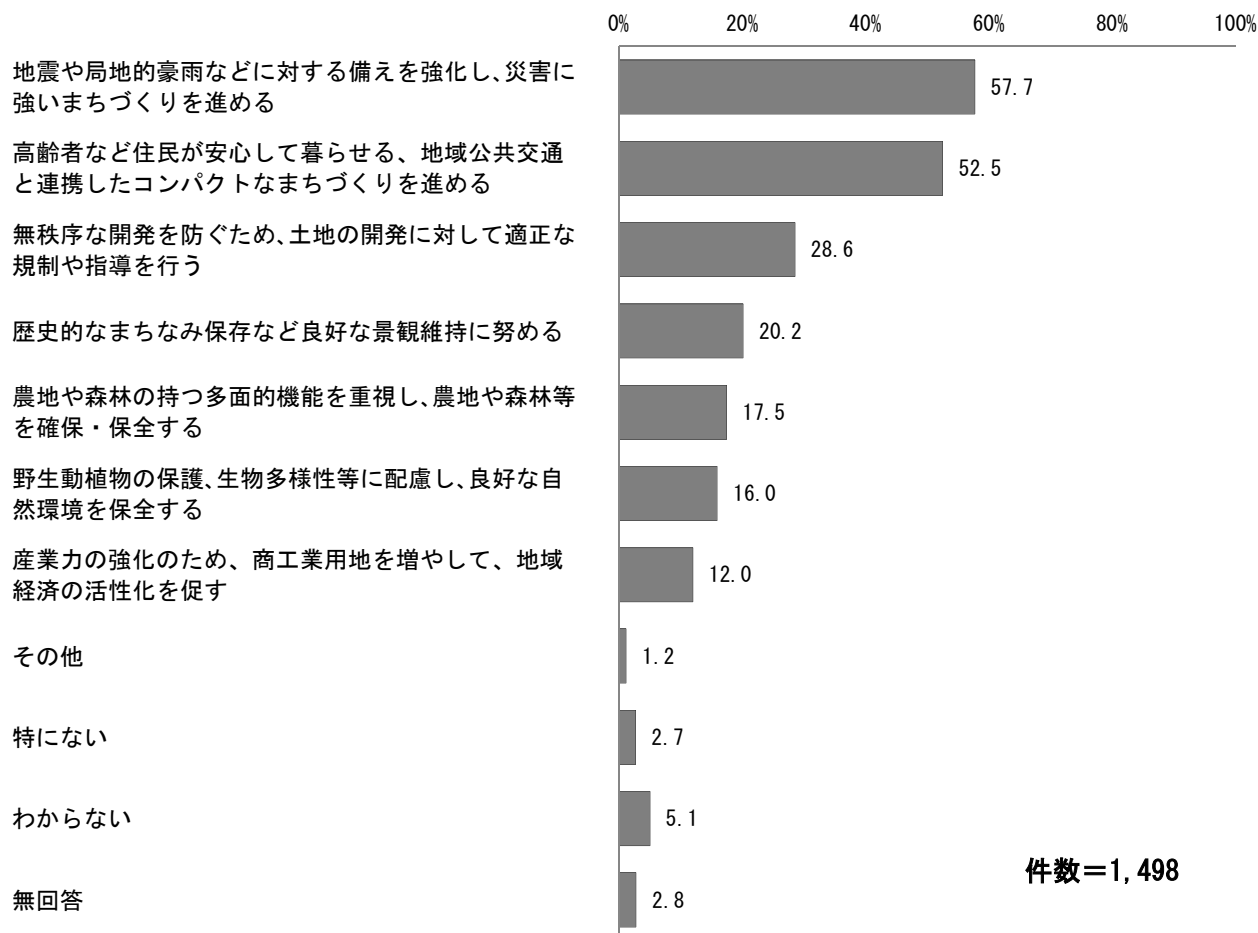
県土づくりへの参加（性別、年齢別、地域別、職業別）



(7) 県や市町村に特に力を入れて欲しい土地利用対策

「地震や局地的豪雨などに対する備えを強化し、災害に強いまちづくりを進める」
が 57.7%

問40 本県における今後の土地利用を考えるにあたり、県や市町村に特に力を入れて欲しい土地利用対策は何ですか。【〇は3つまで】



県や市町村に特に力を入れて欲しい土地利用対策について、「地震や局地的豪雨などに対する備えを強化し、災害に強いまちづくりを進める」と答えた人の割合が 57.7%と最も高く、続いて「高齢者など住民が安心して暮らせる、地域公共交通と連携したコンパクトなまちづくりを進める」(52.5%)、「無秩序な開発を防ぐため、土地の開発に対して適正な規制や指導を行う」(28.6%)の順となっている。

県や市町村に特に力を入れて欲しい土地利用対策（性別、年齢別、地域別、職業別）

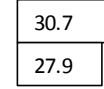
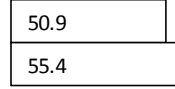
(%)

地震や局地的豪雨などに対する備えを強化し、災害に強いまちづくりを進める

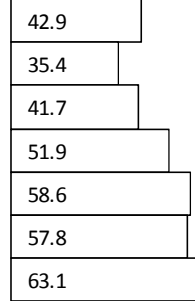
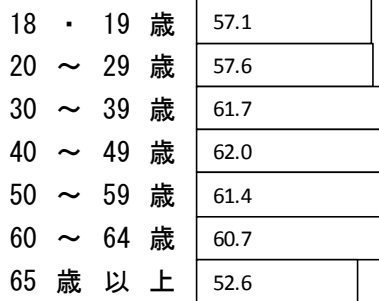
高齢者など住民が安心して暮らせる、地域公共交通と連携したコンパクトなまちづくりを進める

無秩序な開発を防ぐため、土地の開発に対して適正な規制や指導を行う

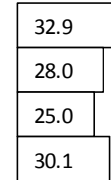
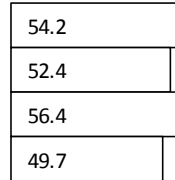
〈性別〉



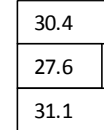
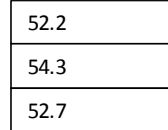
〈年齢別〉



〈地域別〉



〈職業別〉

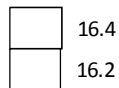
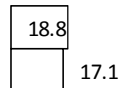
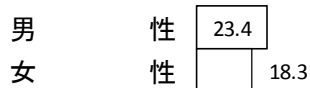


歴史的なまちなみ保存など良好な景観維持に努める

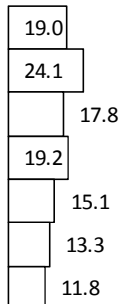
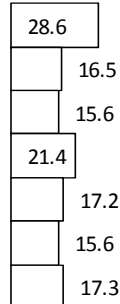
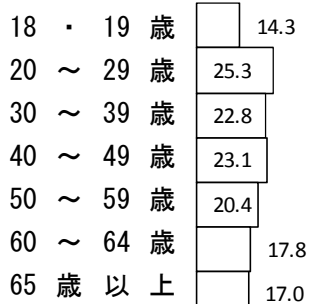
農地や森林の持つ多面的機能を重視し、農地や森林等を確保・保全する

野生動植物の保護、生物多様性等に配慮し、良好な自然環境を保全する

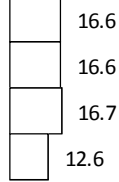
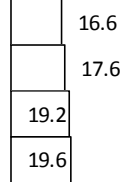
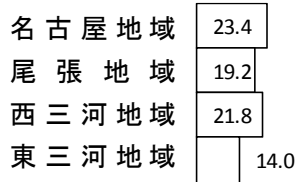
〈性別〉



〈年齢別〉



〈地域別〉



〈職業別〉

